

# 令和2年度診療報酬改定の基本方針の検討について

- これまでの「診療報酬改定の基本方針」においては、①改定に係る基本的考え方・基本認識に続いて、②重点課題、改定の視点等を定めた上で、③具体的な検討の方向を示してきた。
- 基本方針における改定の視点は、社会保障・税一体改革を経て、これまでの改定でも基本的に継承されてきており、それに各改定時における医療を取り巻く状況を踏まえた重点課題等を追加してきたところである。
- 2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指して、多様な就労・社会参加の環境整備、健康寿命の延伸、医療・福祉サービスの改革による生産性の向上、給付や負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保についての取組・議論が進められる予定。
- また、医師等の働き方改革の推進、患者・国民に身近でわかりやすい医療の実現、医療におけるICTの利活用なども重要なテーマ。



- 令和2年度改定の基本方針においては、(1)改定に当たっての基本認識、(2)改定の基本的視点と具体的な方向性を示し、次ページのような観点から検討してはどうか。

## 基本方針

診療報酬改定の議論の基礎



中医協における審議

## ①令和2年度診療報酬改定の基本方針について

- 令和2年度改定においても、これまでの改定の視点（※別添参照）をベースとしつつ、近年の社会情勢・医療を取り巻く状況を踏まえたものとしてはどうか。その際、改定に当たっての基本認識や各視点の具体的な検討の方向について、どのようなものが考えられるか。

### （1）改定に当たっての基本認識

<p>（例） 健康寿命の延伸、人生100年時代に向けた「全世代型社会保障」の実現</p>	<p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 健康寿命の延伸、人生100年時代に向けた「全世代型社会保障」の実現</li><li>・ 社会保障制度の持続可能性の確保</li><li>・ 「経済財政運営と改革の基本方針2019」や「成長戦略実行計画・成長戦略フォローアップ・令和元年度革新的事業活動に関する実行計画」等への対応</li></ul>
<p>（例） 医師等の働き方改革の推進</p>	<p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療従事者の業務負担の軽減と、働き方改革の推進</li><li>・ 業務の効率化に資するICT等の活用</li><li>・ 医療資源の効率的な配分と適切な医業経営の確保</li></ul>
<p>（例） 患者・国民に身近な医療の実現</p>	<p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 患者にとって身近でわかりやすい医療の実現</li><li>・ かかりつけ医機能の充実、患者への情報提供や相談・支援の充実</li><li>・ 市民、医療提供者、行政、民間企業それぞれが担う役割の実現</li></ul>

## (2) 改定の基本的視点と具体的方向性

○「視点」の例と「方向」の例における記述は、中央社会保険医療協議会での議論を参考に整理している。

「視点」の例	「方向」の例
<p>(例) 医療従事者の負担を軽減し、医師等の働き方改革を推進する視点</p>	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における適切なマネジメントやタスク・シフティングの推進、人員配置の合理化、チーム医療の推進、書類作成・研修要件の合理化等を通じた労務管理・労働環境改善のマネジメントの実践の評価</li> <li>・ 柔軟な働き方や業務の効率化に資するICT等の活用の推進</li> </ul>
<p>(例) 患者・国民にとって身近であるとともに、安心・安全で質の高い医療を実現する視点</p>	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局の機能の評価</li> <li>・ 患者にとって必要な情報提供、相談支援の評価</li> <li>・ アウトカムに着目した評価の推進</li> <li>・ 質の高いがん医療の評価</li> <li>・ 小児医療、周産期医療、救急医療の充実</li> <li>・ 妊産婦が納得して医療を受けられる体制の構築</li> <li>・ 精神疾患や障害を抱える方などに対する施策・サービスとの連携</li> <li>・ 口腔疾患の重症化予防、口腔機能低下への対応、生活の質に配慮した歯科医療の推進</li> <li>・ 薬局の地域におけるかかりつけ機能に応じた適切な評価、対物業務から対人業務への転換の推進</li> <li>・ 医療の質に係るエビデンスを踏まえた遠隔診療の評価</li> <li>・ ICT等を活用した地域における情報共有・連携の推進</li> </ul>
<p>(例) 医療機能の分化・強化、連携と地域包括ケアシステムの推進に関する視点</p>	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域によって異なる状況を踏まえた病床機能の分化・連携の推進、入院医療の評価</li> <li>・ 外来医療の機能分化・強化</li> <li>・ 質の高い在宅医療・訪問看護の確保</li> <li>・ 医療機関、薬局、訪問看護ステーション間の連携の推進</li> <li>・ 地域包括ケアシステムの推進のための取組</li> </ul>
<p>(例) 効率化・適正化を通じて、制度の安定性・持続可能性を高める視点</p>	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後発医薬品の使用促進</li> <li>・ 残薬や重複投薬、薬剤耐性（AMR）、ポリファーマシーへの対応や長期処方時の適正使用等、医薬品の効率的かつ安全で有効な使用の推進</li> <li>・ 費用対効果評価</li> <li>・ 医薬品、医療機器、検査等について、市場実勢価格を踏まえた適正な評価</li> </ul>

# 過去の診療報酬改定の基本方針における視点等

(別添)

		平成20年度改定	平成22年度改定	平成24年度改定	平成26年度改定	平成28年度改定	平成30年度改定
重点課題等		産科や小児科をはじめとする病院勤務医の負担の軽減  ・医師以外の書類作成等 ・ハイリスク妊産婦や母胎搬送 ・専門的な小児医療 ・診療所の夜間開業 ・大病院の入院医療の比率向上	1. 救急、産科、小児、外科等の医療の再建  ・地域連携による救急患者の受入れ ・新生児等の救急搬送を担う医師 ・後方病床・在宅療養の機能強化 ・手術の適正評価  2. 病院勤務医の負担軽減(医療従事者の増員に努める医療機関への支援)  ・医師以外の医療職等の役割 ・地域の医療機関や医療・介護関係職種との連携 ・医療クレークの配置	1. 病院勤務医等の負担の大きな医療従事者の負担軽減  ・チーム医療の促進 ・勤務体制の改善等の取組 ・救急外来や外来診療の機能分化  2. 医療と介護の役割分担の明確化と地域における連携体制の強化の推進及び地域生活を支える在宅医療等の充実  ・医療・介護の連携 ・在宅医療を担う医療機関の役割分担や連携 ・看取りに至るまでの医療の充実 ・早期の在宅療養や地域生活への復帰 ・在宅歯科・在宅薬剤管理、訪看の充実	医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等  ・医療機関相互の連携や医療・介護の連携によるネットワーク ・入院医療 ・外来医療(外来医療の機能分化、連携) ・在宅医療(量と質の確保)	地域包括ケアシステムの推進、病床の機能分化・連携を含む医療機能の分化・強化・連携  ・医療機能に応じた入院医療 ・医療従事者の負担軽減 ・地域包括ケアシステム推進のための取組 ・質の高い在宅医療、訪問看護 ・外来医療の機能分化	地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化、連携の推進  ・地域包括ケアシステム構築のための取組の強化 ・かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局 ・医療機能や患者の状態に応じた入院医療 ・外来医療の機能分化、重症化予防 ・質の高い在宅医療・訪問看護 ・国民の希望に応じた看取りの推進
	医療機能の分化・連携の推進	・入院医療の在り方 ・DPC病院の在り方・拡大 ・医療の結果による質の評価 ・医療ニーズに着目した評価 ・医介連携等、在宅医療の推進 ・歯科医療の充実	・質が高く効率的な急性期入院医療や回復期リハ等 ・在宅医療、訪看、在宅歯科医療 ・介護関係者も含めた多職種連携	・病院機能にあわせた入院医療 ・慢性期入院医療 ・医療提供の困難地域への配慮 ・診療所の機能 ・医療機関間の連携	— ※【重点課題】に記載あり	— ※【重点課題】に記載あり	— ※【重点課題】等に記載あり
	患者にわかりやすく、QOLを高める医療	・わかりやすい診療報酬体系等 ・医療機関の明細書の発行 ・外来医療への移行 ・時刻以降の診療所の開業 ・薬局調剤の夜間休日・24時間対応	・わかりやすい診療報酬体系等 ・医療安全対策 ・心身の特性やQOLの配慮 ・疾病の重症化予防	・診療報酬点数表の平易化・簡素化 ・医療安全対策 ・患者に対する相談支援体制 ・明細書無料発行	・診療報酬点数表の平易化・簡素化 ・医療安全対策 ・患者に対する相談指導 ・明細書無料発行 ・入院中ADL低下予防 ・患者データの提出	・かかりつけ医、歯科医、薬剤師・薬局 ・ICTによる医療連携、医療データの収集・利活用 ・質の高いリハビリテーション	
	充実が求められる領域の評価	・がん医療 ・インベーション等 ・脳卒中 ・自殺・子どもの心 ・医療安全、新技術等 ・オンライン化・IT化	・がん医療 ・認知症 ・新医療技術や医薬品等のインベーション ・精神科入院医療 ・歯科医療 ・新型インフル等の感染症 ・肝炎 ・手術以外の医療技術	・がん医療 ・認知症 ・医療技術、医薬品等のインベーション ・精神疾患 ・歯科医療 ・生活習慣病 ・感染症 ・リハビリテーション ・手術等の医療技術	・がん医療 ・認知症 ・インベーション ・精神科医療 ・歯科医療 ・救急医療、小児医療、周産期医療 ・リハビリテーション ・投薬管理 ・医療技術	・がん医療 ・認知症 ・精神医療 ・難病 ・小児医療、周産期医療、救急医療 ・歯科医療 ・薬学管理 ・医療技術、インベーション	・がん医療 ・認知症 ・精神医療 ・難病 ・小児医療、周産期医療、救急医療 ・歯科医療 ・ICT技術の導入、データの収集活用 ・アウトカムに着目した評価
効率化できる領域の適正化	・後発医薬品 ・市場実勢価格の反映(医薬品、医療材料、検査等) ・新技術への置換え	・後発医薬品 ・市場実勢価格の反映(医薬品、医療材料、検査等) ・新技術への置換え	・後発医薬品 ・市場実勢価格の反映(医薬品、医療材料、検査等) ・平均在院日数減少、社会的入院是正 ・治療効果が低くなった技術の評価	・後発医薬品 ・医薬品、医療機器、検査等の評価 ・長期収載品の薬価特例的引下げ ・平均在院日数の減少や社会的入院の是正 ・大規模薬局の調剤報酬の適正化	・後発医薬品、長期収載品 ・退院支援 ・医薬品の適正使用 ・医薬分業のための調剤報酬 ・重症化予防 ・医薬品、医療機器、検査等の評価	・薬価制度 ・後発医薬品 ・費用対効果の評価 ・医薬品の適正使用 ・薬局の評価 ・医薬品、医療機器、検査等の評価	
				【医療従事者の負担軽減】 ・チーム医療 ・医療従事者の負担軽減の取組 ・救急外来の機能分化	【医療従事者の負担軽減、働き方改革】 ・チーム医療、勤務環境の改善 ・業務の効率化、合理化 ・医療従事者の負担軽減の取組 ・多職種連携		